## 3 今月の青果物

### にんじん

主要産地のにんじんの入荷量（東京都中央卸売市場）

| 産地 | 2025年度11月入荷量 | 2025年度11月シェア率 |
|---|---|---|
| 北海道 | 1,469 t | 28.7 % |
| 千葉 | 2,376 t | 46.4 % |
| 埼玉 | 199 t | 3.9 % |
| 海外産 | 156 t | 3.0 % |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 11月入荷予測 | 4,500t（前年比90.6%、平年比67.5%） | | |
| 11月価格予測 | 150円（前年比72.4%、平年比150.0%） | | |
| 11月市況予測 | （上旬）<br>強保合 ⇗ | （中旬）<br>保合 ⇒ | （下旬）<br>保合 ⇒ |

**今後の競合産地の動向は?**

千葉県産の秋冬にんじんの都中央卸売市場の旬別入荷量は11月から100トンを超え、本格化します。それまでは北海道を中心に冷涼産地からの入荷が主で、これらの産地は11月になると入荷量が減少していく傾向にあります。また、千葉県産の出荷がおおむね3月末まで続く中で、埼玉県産や鹿児島県産（1月下旬～3月末出荷）の入荷もあります。

北海道の令和8年度の栽培面積は前年並で、夏期の高温等の影響が少なかった今年は前年・平年と比べて豊作傾向で推移しています。

千葉県においては、7月末から は種が始まり、お盆前後まで続きます。令和6、7年度作は夏期の高温乾燥のため、は種作業を遅らせざるを得なかったり、まき直しをする生産者も多くみられ、出荷初期の11月はいずれの年も平年を下回る出荷量が続きました。また、令和6年度作は小物傾向に加えて収穫時期に晴天が続いたことで収穫進度が速く、2月中旬には平年比7割未満の入荷量になるなど、切り上がりが早まった一方で、令和7年度作は年明け以降も残量多く、4月に入ってからも秋冬作の入荷が目立ちました。

千葉県の令和8年度作は、豪雨により種子が流されたり湿害を受けたほか、日照不足の影響で生育に遅れが出ており、出始めは日量も安定せず小物傾向になることが見込まれています。しかし、10月に気温が高くなったことから生育は回復傾向にあり、11月下旬以降、量がまとまり本格的な出荷になると期待されます。













